

2023年7月24日

会社名 株式会社ジェーソン

代表者 代表取締役社長兼会長 太田万三彦
(コード番号：3080 東証スタンダード市場)

問い合わせ先 専務取締役経営企画室長 山田 仁夫
電話番号：04-7193-0911 (代表)

2024年2月期第1四半期 決算に関する質疑応答集

この質疑応答集は、2023年7月13日（木）に発表いたしました2024年2月期第1四半期 決算におきまして、発表以降に株主、投資家などの方々からいただいた主なご質問をまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1 | 第1Qは売上高が約72億円、営業利益が約3.6億円と好調に推移しておりますが、その要因について、教えてください。

A | 売上高は前年同期比約106.8%、営業利益は前年同期比約105.5%と増収増益となりました。第2Qの業績予想に対する第1Qの進捗率も売上高は約49.2%、営業利益は約53.7%と概ね計画通りに進捗しております。増収の要因は、店舗数の増加と併せ、物価高を背景に仕入・販売価格が上昇する中、引き続き低価格を訴求し販売数・客数を伸ばしたこと等が挙げられます。また利益面においては、ローコスト経営の徹底、とりわけ節電等による電気料金等のコスト抑制などが経費節減に寄与し、増益につながりました。

Q2 | 重点施策の一つであるJV（ジェーソン・バリュー）商品の取扱状況について教えてください。

A | JV商品については仕入先との良好な関係により、引き続き安定的な商品調達ができており、当期も当社の売上総利益向上に寄与しております。JV商品は仕入価格が低く抑えられているため価格設定の自由度が高く、販売状況に応じて値下げすることで物価高に対抗し、お客様の支持を頂いております。

Q3 | 今期の出店状況について教えてください。また神奈川県に直営店がないのはなぜですか。

A | 今期は既に茨城県神栖市、埼玉県熊谷市と2店舗の新規出店を行い、直営店舗数は113店舗となりました（第1四半期末時点112店舗）。引き続きローコストで効率の良い居抜き物件を中心とした店舗情報の収集を強化するとともに、不振店等の状況にも目を配り、適時適切にスクラップ&ビルドを進めて参ります。

神奈川県に直営店がないことについては、特段の事由や背景はございません。諸条件が適合するのであれば、積極的に出店を検討してまいります。

Q4 | 前期は水道光熱費が営業利益を圧迫したとのことですが、今期の影響について教えてください。

A | 前期に引き続き、電気料金をはじめとした各種コストの高騰が重荷となっておりますが、売上及び売上総利益の拡大、及び各店舗における節電など徹底したローコストオペレーションにより、第1Qにおける影響は概ね想定通りに推移いたしました。第2Q以降も以上の施策の継続により、各種コストの上昇は一定程度吸収できると考えております。

Q5 | PB商品「尚仁沢の天然水」の販売状況、および子会社尚仁沢ビバレッジの業況などについて教えてください。

A | おかげ様をもちまして当社PB商品「尚仁沢の天然水」は大変ご好評をいただき、月間販売数で過去最高を更新するなど好調に販売量を伸ばしており、ジェーンの中核商品に育ちつつあります。子会社尚仁沢ビバレッジにおいては、前期末より増産体制が確立されたことに加え、ジェーン店舗での販売量も計画以上となっているため、工場の稼働効率及び生産量は飛躍的に増加しております。これにより原価率の低減が進み、グループ収益への貢献度も高まっております。